



令和2年度 清水小学校だより

令和2年8月25日発行

# 清水の子

文責 校長 沖島 宏幸

しっかり考える子 ・ 自らよく行う子 ・ すこやかな子



## 前期後半スタート！



学校の主役である、元気な子どもたちが戻ってきました。

今年の夏休みは例年と異なり、新型コロナの影響で短縮されたうえ、思いっきり旅行等にも出かけることができず、また猛暑だったため室内で過ごすことが多かったのではないのでしょうか。

ただ一番心配していた水や車の事故等の発生、また、事件等に巻き込まれることもなかったことは、大変うれしいことです。これもひとえに、安全への気配りをし、家族の一員としての役割を与えてくださったり、豊かな体験をさせていただいたりしたご家庭・地域の皆様のおかげであると感謝いたします。

さて、これからは、実りの秋を迎え、勉強や運動によい季節となります。私たちも目指す児童像「しっかり考える子」「自らよく行う子」「すこやかな子」を合言葉に、全力で取り組んで参ります。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 江戸の庶民教育

江戸時代の親は、「三つ心、六つ躰（しつけ）、九つ言葉、文（ふみ）十二、理（ことわり）十五で未決まる」という言葉を実践したといわれています。

「三歳までに心の在り方」を教え、

「六歳までに立居振る舞い」を身に付けさせる。

「九歳までに時候の挨拶」が正しく言える。

「十二歳になると手紙」が書けるようにさせる。

「十五歳までには世の中の理屈」を理解することで、その後の生き方が決まるというものです。

農民も商人も職人も読み書き算盤と対応辞令を身に付けていないと十分な待遇も得られない。それだけに、心ある親は子どもの養育に心を砕いていたとのことです。

〈日本教育 教育点描 いま・むかし〉より

時代は移り変わっていきますが、大切なことはいつの時代でも変わらないのかなと感じます。躰（しつけ）についても、「身を美しく見せる立居振る舞い」という意味でこの漢字になったとか、しつけは「おしつけ」といって、型にはめて、しっかりと身に付けさせることが大切だといわれます。

就職するときに、仕事に対する意欲や知識は当然ですが、「挨拶や返事をきちんとする」「自分の役割をきちんと果たす」「人に言われたことを素直に聞く」などは最低限求められることです。そういう意味でも、小さい頃からの「躰」はとても大切だと思います。思い返せば、私自身も「挨拶はきちんとしなさい」「茶碗は持って食べなさい」「箸の持ち方はきちんと…」など、立居振る舞いも含めて「目上の人には敬いなさい」「嘘はつかない」「人に迷惑をかけない」など、人として大切なことを口うるさく言われ続けた気がします。皆さんもそうであったのではないのでしょうか？

